

令和2年度第2回秦野市廃棄物対策審議会概要

- 1 日 時 令和2年10月29日(木) 午後2時～午後3時23分
- 2 場 所 はだのクリーンセンター 2階 大会議室
- 3 出席者 13名(欠席者1名)

東海大学名誉教授	原田一郎氏
秦野市自治会連合会上地区自治会連合会副会長	竹内 進氏
東海大学教養学部人間環境学科准教授	小栗和也氏
多摩大学グローバルスタディーズ学部特任教授	橋詰博樹氏
J Aはだの女性部副部長	桐山容子氏
秦野市商店会連合会副会長	柏木真一氏
秦野商工会議所	高橋大助氏
公益社団法人神奈川県宅地建物取引業協会	
湘南中支部秦野地区会	石田岳志氏
秦野市PTA連絡協議会会長	中園祐司氏
秦野市食生活改善団体副会長	古谷典子氏
東京地方税理士会平塚支部	斉藤拓哉氏
公募市民	奈良利代子氏
公募市民	松岡 守氏
- 4 会議概要

(1) 現計画のふり返りについて

資料1から資料4について事務局から説明があり、次のア～キのとおり質疑及び委員意見が交わされた上、審議会として内容を承認した。

また、資料5として現計画に関する審議会意見(事務局案)が示され、次のク～シのとおり質疑及び委員意見が交わされた。その結果、スのとおり意見を追加することとしたほかは、事務局案を承認した。

ア 事業系ごみの減量に関して、誰が訪問調査するのか。

→(事務局)市の担当者が行う。ごみの排出状況の聴き取りや保管場所を見て分別状況などの実態を把握する。

イ 事業系の訪問調査が進んでいないのはなぜか。役所の中でできることなのでもっと進んでいないといけないと思う。

ウ 資料3-2裏面(多量排出事業者)について、単に2トンで線引きし

ていいのか。実効性を欠くのではないか。

→（事務局）条例上2トン以上ということで、それが60社というふうに記載しているが、収集業者から毎月、収集量の報告がきていて、月1.5トンぐらいある事業者については、多量排出に近い事業所としてこちらでも把握していて、200社ほどある。訪問調査のときに意識を変えて話をしていこうと思っている。

エ 県と連携した訪問調査は何社実施したか。

→（事務局）1社だ。

オ 何社か集めてバイオマス処理施設に持っていくのが月40トンということだが、これについてももう少し教えてほしい。

→（事務局）いずれもスーパーから出される厨芥類の搬入で、収集業者は1社。市内ではスーパーが2社4店舗、秦野市だけでなく、平塚、伊勢原市の一部店舗も加わり、1台と一緒に積んで大田区にある施設まで運んでいる。それでやっと処理費などがペイできている。

カ 2社4店舗とのことだが、もっと働きかけることができるのではないか。生ごみは資源化できるということと、そのやり方を業者に提示したほうがいいと思う。

→（事務局）体制整備をまずさせていただき、これから全事業所を回る予定である。厨芥類の資源化については、あくまでお願いであり、事業者にとってはリスクもある。コロナの影響でダメージがある事業者などもいるので、ダメージが少ないような事業者から回らせていただいている。御意見を参考にさせていただいて、食品系については研究しながら、さらなる事業系ごみの減量を図れればと思う。

キ 紙類が一般廃棄物に入ってくるが、資源化できる紙はどの程度あるとみているか。

→（事務局）紙類の焼却が572トン。体感だが、資源化できる紙はだいたい4割弱あるかなと思う。使用したペーパータオルは、コロナの影響もあって量が増えているが、プラスチック繊維が入っているということなので、なかなかリサイクルが難しいと聞いている。段ボールや書類の資源化はここ3年ほど強く呼びかけており、またシュレッダーした紙も家庭ごみのほうが先にリサイクルしているが、収集業者にもなるべくリサイクルで回収するようにと促しているの、こちらも

焼却されるものの中からは減ってきている。

ク 資源化率が目標値を上振れているが、資源化率を挙げようとするコストが上がってくるのではということが気になる。資源化率が高いのにコストがそれほど高くない自治体もあるが、なぜだろうと考えると、いろんなリサイクルがあり、量に対してコストが高いリサイクルもあるのだらうと思う。そういったものに手を出すかどうかは各市の違いではないかなと思う。逆に、秦野市があまりコストをかけずにできているリサイクルはどういうところか。

→（事務局）リサイクルする施設を持っているかどうかということも関連する。秦野市は、資源物は委託してお金をかけてリサイクルしている。今後、他の市について状況を確認しながら、コストを下げられる部分があるのか研究していかないといけないと思っている。

ケ 可燃ごみを有料化しているかどうか、資源化にどう対応しているかも関連があるかもしれない。どうしてそうなっているか事務局に調べてもらえば、秦野市にできるものがあるかもしれない。また、秦野市のほうがもっとうまくやれることもあるかもしれない。その辺を検討してもらいたい。

コ 生ごみ処理機の普及は進んでいるのか。

→（事務局）平成30年度補助台数81台であったところ、令和元年度は122台となり、補助率の引き上げの効果が出て、約1.5倍に普及が進んでいる。

サ 資料5の3ページについて、生ごみ処理機について、利用者から発信があったのか、補助金の今後の継続などはどうか。

→（事務局）補助金については、中間目標年度の令和3年度までは継続することになっているが、その後はまだ決まっていない。

シ これからどうしていったらよいかという議論は、次期計画案の審議のほうで深めたいと思う。現行の弱点が次期計画で克服され、現行の良いところが次期計画で伸びるように、強化点になると思う。現計画が次期計画のベースになるというか、次期計画は現計画のふり返りを反映したものでなければならないと思う。

ス （事務局）現計画に対する意見については、事業系ごみの減量に関して取組みをさらに推進すべきという意見となっているが、生ごみの

減量に関しても、処理機の普及を図っていくなら、令和3年度以降も続けた方がいいという御意見であると受け止め、「現計画に対して」の中に、「生ごみ処理機の普及を推進していくべきだ」という趣旨の文言を追加してもよいか。

(2) その他

事務局からの連絡事項

次回日程は2月の予定

本日の会議を踏まえ、現計画のふり返しについて、事務局から修正内容を提示するので、内容確認をお願いします。

以上